

第3次今治市総合計画がスタートします！

私たちのまち今治市は2005年1月に12の市町村が合併し、2025年で合併20周年を迎えました。世界に誇る海事産業や今治タオルといった地場産業の発展、そして「サイクリストの聖地」としての飛躍など、確かな歩みを進めてきました。一方で、人口減少や少子高齢化、そして急速なデジタル化など、時代は大きく変化し、向き合うべき課題は複雑化しています。

そんな変化に対応し、誰もが前向きに安心して暮らし続けられる“次世代の今治”をつかっていくため、「第3次今治市総合計画」を策定しました。

将来都市像

瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまちIMABARI

～みんなのふるさと、つむぐ未来～



将来都市像に込めた3つの思い…



世界に誇れるまち IMABARI

今治にしかない魅力をさらに磨き、「今治に住んでいることが誇らしい!」と皆さんが胸を張れるように。



夢を育み、応援するまち IMABARI

今治で生まれた夢が世界へ羽ばたき、また新たな夢を持った人々がチャレンジに来てくれるように。



ここに居続けたいと思える ふるさと IMABARI

生活基盤をしっかり整え、温かい地域のつながりを守ることで、「ずっと住みたい、また帰ってきたい」と思ってもらえるように。



総合計画とは

自治体の最上位計画であり、福祉・教育・産業・まちづくりといった施策すべてを網羅し、自治体の大きな方向性を定めています。地域をとりまく社会の動きや時代の変化を踏まえてつくられています。

この計画で定めたことを前提に、あらゆる分野で取り組んでいく事業の内容を決めていきます。

総合計画を構成する3つの層

これまでの歩み…

■第1次総合計画

2006年度▶2015年度

合併で新たな今治市が誕生。バリシップやサイクリングしまなみといった、合併したメリットを最大限に生かした事業を展開。

■第2次総合計画

2016年度▶2025年度

みなと交流センター「はーばりー」やクリーンセンター「バリクリーン」、そして「里山スタジアム」など、にぎわい創出に向けた都市機能が拡充。せとうちみなとマルシェや今治あきない商社の設立といった、市の産業の活性化にも努めた。

基本
構想

この10年間に目指す将来の都市像や
まちづくりのイメージ
「こんなまちにしたい」

基本計画

基本構想を実現するために
行う事業の方針
「そのためにはこんな取り組みが必要だな」

実施計画

具体的な事業のはなし
「いつどのくらいの規模で
なにを行うか」

市民が真ん中課
問合せ先 TEL 0898-36-1503
FAX 0898-32-5211(代)

皆さんが日々の暮らしの中で実感できるものにするため、これからのまちづくりのイメージを次の4つの柱に整理しました。

01 夢やふるさとへの誇りを持ち、市民が主役のまちづくり

人やまちを思う気持ちが行動のきっかけになり、その行動が人やまちを動かし、さらに魅力的になった人やまちが好きになる。心が通い合う“つながり”を大切にしながら、市民自身が未来をつくる主役として輝けるまちをつくっていきます。

02 魅力にあふれ、住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくり

何気ない日常の風景に心地よさを覚えてこそ、魅力あるまちだと実感できます。いつでも今治に帰ってこられるように、将来に不安を感じることなく、誰もが自分らしく健康的で生き生きと暮らせるまちづくりに取り組んでいきます。

03 世界に誇れる強みや魅力を醸成し発信するまちづくり

今治には唯一無二の個性と強みがあります。この価値に気づき、育て、そして自信を持って発信していく必要があります。今治ならではのコンテンツで地域全体が活気づき、世界から選ばれるまちへと成長していくことを目指します。

04 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

多様な地勢を有する今治が、各地域で時代に合わせた暮らしを支えていくことは重要な課題です。生活インフラを整え、にぎわいを生み出すことで、当たり前の毎日を当たり前で過ごすことができるまちをつくっていきます。

まちづくりの主役は“あなた”です!

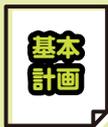
総合計画は、市役所だけで実現できるものではありません。皆さん一人一人のふとした行動が、まちを動かす大きな力になります。

- 地域の子どもたちを温かく見守る
- 地元のイベントやボランティアに参加してみる
- マイボトルを持ち歩くといった、環境にやさしい生活を心がける など

総合計画には、51の施策ごとに「みんなでできること」も記載しています。まずは身近なことから。一緒に今治の未来をつむいでいきましょう。



4つの施策大綱をもとに18の基本目標と51の施策を定めました。



前期基本計画 2026年度▶2030年度

後期基本計画 2031年度▶2035年度

後期の計画では、今治市をとりまく社会情勢や市民のニーズの変化に応じて内容の見直しを行います。



各3年計画で、事業の進捗や社会情勢の変化に応じて毎年内容を見直していきます。

3年間

3年間

3年間

3年間

※総合計画についてさらに詳しく知りたい方はこちらから概要版や、やさしいことば版も用意しています。



中心市街地にできる施設と市の家計簿



「総合計画」ではまちづくり全体のイメージをお伝えしましたが、その実現を具体化する重点計画として、中心市街地(駅から港まで約1キロ四方のエリア)の将来像や整備の方向性を示したものが、「中心市街地グランドデザイン」です。

このグランドデザインに関連して、特に市の重要な施策を担う「3つの中核施設」についてご紹介します。



子育て・少子化対策の司令塔

ネウボラ拠点施設

■今治市中央公民館付近に建設予定

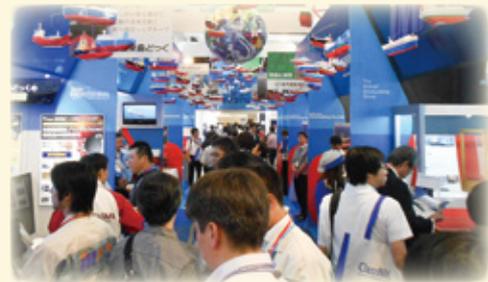
ネウボラ拠点施設は、切れ目のない子育て支援を行う施設です。屋内の遊び場をはじめ、自習室や音楽室といった中高生の居場所、誰もが憩い交流できるカフェスペースなど、多彩な機能を整備します。

瀬戸内の世界都市IMABARIの象徴

MICE (マイス) 施設

■旧日吉小付近に建設を検討中

ビジネスを中心としたあらゆる催事の会場となるMICE施設では、バリシップのような大きなイベントでも開催できるようにする想定です。人流の創出と交流人口の拡大を図り、地域に広く及ぶ経済効果を生み出します。



MICE=Meeting (会議)・Incentive Travel (研修旅行)・Convention (国際会議)・Exhibition (展示会)

防災と市民サービスの中核

県・市合同庁舎

■河野美術館・愛媛県今治支局敷地に建設予定

現在の市庁舎は築67年、県今治支局も築56年が経過しており、老朽化が進んでいます。建て替える機に、市と県が同じ建物の中で関連する行政サービスを行えるようにします。



これらの施設整備をきっかけとして、中心市街地のにぎわいを創出し、島しょ部や陸地部の各地域と連携しながらその効果を市全体へ広げ、未来に誇れる魅力ある今治の実現を目指します。



写真はイメージです。

Tips

中心市街地グランドデザイン

中心市街地を対象に、今治らしい魅力あるまちづくりを進めるため、市民の皆さんと共に描いた計画です。本計画の中では、中心市街地を区域ごとに整理し、その将来像を示しています。



中心市街地グランドデザインについて

魅力都市創生課
問合せ TEL 0898-36-1508
FAX 0898-32-5211(代)



教えてしげきさん！

**Q. 複数の施設を
建てる予定だけど、
市のお金は大丈夫？**



**A. 3つの施設を整備しても
市の財政は健全です。**
今後10年間の財政状況を家計簿に例えて説明します。



■今治市の一般会計予算は約800億円ですが、
ここでは今治家の支出を仮に800万円とします。(令和6年度決算ベース)

現在の今治家の家計

※()内は主要なもの

年収	800万円	支出	800万円
収入(市税、ふるさと納税)	340万円	生活費(人件費、扶助費)	650万円
仕送り(国の交付金)	420万円	家や庭の建設・修繕費(普通建築費)	70万円
借入(市債)	40万円	返済(公債費)	80万円

預貯金残高(基金)	370万円	借入残高(市債)	500万円
-----------	-------	----------	-------

今治家には毎月の返済がありますが、預貯金(基金)も持っています。

**新しい「家」を建てるには大きな費用がかかります。
そのため、有利な資金を確保します。**

■3つの施設整備には400～500万円(億円)がかかりますが、これは今治家の年収の約半分。家計への負担を最小限に抑え、将来的な負担もできるだけ軽くする資金計画を立てます。



資金計画



- ①預貯金(基金)から 約210万円
- ②仕送り(国交付金) 約90万円
- ③有利な借入(市債) 約200万円

↑返済に国の補填(交付税措置)があります。

計500万円



■10年後の今治家の家計を考えてみます。
人口が減ることで、今治家の年収は700万円に下がる予想です。

預貯金は減りますが、万が一の備えは万全！

10年後の今治家の家計

※()内は主要なもの

年収	700万円	支出	700万円
収入(市税、ふるさと納税)	300万円	生活費(人件費、扶助費)	610万円
仕送り(国の交付金)	390万円	家や庭の建設・修繕費(普通建築費)	30万円
借入(市債)	10万円	返済(公債費)	60万円

預貯金残高(基金)	200万円	借入残高(市債)	410万円
-----------	-------	----------	-------

災害など、もしもの時に備えた預貯金は目安以上にあります。また借入残高は、新たな借入をしても、これまでの返済が順調に進んでいるため、減少しています。

社会の変化や新たな需要に対応するため、財政収支推移を向こう10年先まで試算する「**中長期財政収支見通し**」を毎年更新し公表しています。

市民の皆さんに将来像を共有しながら、これからも財政状況について分かりやすく説明する努力を続けていきます。

財政収支見通しについて

財政課
問合先 TEL 0898-36-1505
FAX 0898-32-5211(代)

